

令和3年度 地域マネージャー研修会（報告）

1. 研修日程

◎地域毎に開催

- | | | |
|--------|----------|-------------|
| ○ 水口地域 | 4月20日（火） | 15:00～17:00 |
| ○ 土山地域 | 4月27日（火） | 10:00～11:30 |
| ○ 甲賀地域 | 4月21日（水） | 14:00～16:00 |
| ○ 甲南地域 | 4月15日（木） | 14:00～16:00 |
| ○ 信楽地域 | 4月19日（月） | 14:00～15:45 |

2. 研修内容（概要）

◎政策推進課職員より地域マネージャーへ発信（意見交換）

◎資料は別紙のとおり

3. その他

◎小規模多機能自治勉強会（ZOOMによる会議） 6月2日、3日実施

- ・地域運営組織の取り組み事例共有会
- ・行政の施策・支援事例共有会
- ・地域運営組織や行政への支援者（中間支援機関等）の支援事例共有会

自治振興会、区・自治会等の地域支援について

1. 市が進めているまちづくり

- ・行政の一律・公平な従来通りの施策では対応しきれないことが多くなったこと。
- ・地域の実情に応じ、地域で考え、地域で課題解決に向けた取り組みを行うことができる仕組み（地域内分権）

2. 自治振興会とは

- ・区、自治会をはじめ、NPO や各種団体が連携・協力し、「地域自らが強みを活かし、弱みを補う」まちづくりの仕組み。

3. 地域の自主性を育てる

- ・地域の特性に応じて主体的に取り組み、行政がその取り組みを支援することで、よりよい解決を図る。

4. 地域市民センター（地域マネージャー）が行う地域支援

- ・情報の収集整理と共有化
- ・意見交換、話し合い
- ・計画づくりと実践行動
- ・人材発掘、人材育成 等

5. 地域の人と交わり、地域のことをよく知ることから

- ・地域の課題を把握
→区・自治会要望やその回答内容を確認したり、区長さんや自治振興会の役員と対話し、地域の実情を知る。
- ・地域カルテの活用
- ・地域で活動している人を把握
→地域の活動家、得意分野を持っている人、子どもたちの通学を見守る人などと出会う。
地域市民センターだよりでその人を紹介するなど。
- ・地域の資源となるべきものを探す
→地理的・歴史的資源、地域の宝など地域活性化に活用できそうなものを見出す。
→課題解決とはいえ、何から手をつけていいかわからない。「テーマ」を設定し、マネージャー同士で連携・協力しながら活動の幅を広げる

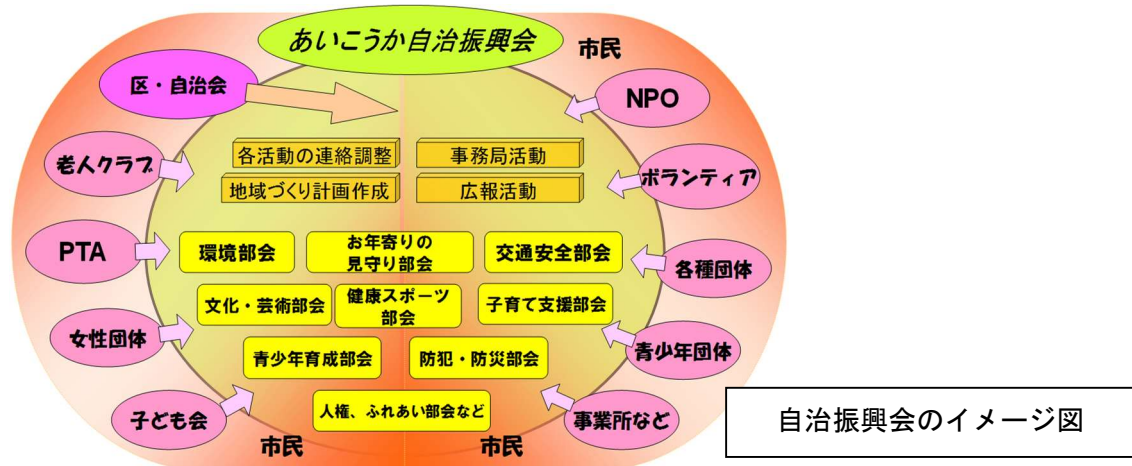
市が進めているまちづくり

人口減少社会に入り、少子化、高齢化が進む中、高齢者福祉や子育て、防災・防犯など生活に密着した公共サービスへのニーズも益々多様化しており、行政の一律・公平な従来どおりの施策では対応しきれないことも多くなってきています。

そこで、地域の実情に応じ、地域で考え、地域で課題解決に向けた取り組みを行うことができる新しい仕組みづくり（地域内分権）を目指す必要があると考え、平成22年度から『新しい地域コミュニティの創造（自治振興会）によるまちづくり』を市民の皆さんに提案し、平成23年度に市内一斉に自治振興会を設立してきました。

自治振興会とは

概ね小学校区の範囲（市内23の地域）で、従来から結びつきをもって自主運営されている区・自治会をはじめ、様々な課題解決に向けテーマをもって活動するNPOや各種団体が連携・協力し、「地域自らが強みを活かし、弱みを補う」まちづくりのしくみとして、市民の皆さんによって立ち上げられている組織です。



地域の自主性、自律性を育てます

多様化、複雑化する地域の課題は、地域のことをよく知る住民が、地域の特性に応じて主体的に取り組みことでより良い解決を図ることができます。自治振興会は、自分達の地域の課題を自分達が知恵や工夫を出し合い、自分たちが汗を流して解決しようとする「住民自治組織」です。市は自治振興会の自律化を促し、地域で自主的な活動を行っていただくよう支援します。そのために地域市民センターを設置し、支援担当職員（地域マネージャー）を配置しています。

地域市民センター職員が行う具体的な地域支援の例※あくまでも、進め方の一例です

Step1 情報の収集整理と共有化

- ・人口減少、少子高齢化等の人口動態をあらゆる地域の統計情報や、地勢、資源、産業等、地域の実態を地域カルテに把握し共有する。
- ・それをもとに、10年後、20年後の地域の近未来を皆で想像してみましよう。

Step2 意見交換、話し合い

- ・ラウンドテーブルや交流の場を開催し、イメージした近未来の地域像をもとに、住民同士で自由に意見を出し合ひましょう。出た意見は必ず整理し、次につなげましょう。
 - 何が必要なのか
 - 何が不要なのか
 - 何をすればよいのか
 - 自分たちでできることとできないことは何か（仕分け、下表参照）
 - 誰がするのか（主体の特定） など

Step3 計画づくりと実践活動

- ・専門家を招聘してアドバイスを受けたり、先例地へ視察に行ったりして取り組みのハウツーを住民と一緒に学んでください。
- ・計画書は持続可能な地域の未来予想図です。みんなが夢を持って楽しく活動に参加できるような内容に作成しましょう。
- ・未来予想図を地域の目標とし、目標実現に向けてやるべきことを、地域づくり計画に反映させます。計画は5ケ年程度の中期計画とし、優先順位や予算などを加味しながら年次ごとに計画してください。

Step4 人材発掘、人材育成

- ・計画書の作成や活動の主体は役員や事務局だけではありません。より多くの住民の理解と参画が重要です。
- ・そのために地域団体に参画を促すとともに、学習会やセミナーを開催してまちづくりの方向性を共有します。また、学習会やセミナーへの参加を広く呼びかけ人材の発掘や育成にもつなげてください。

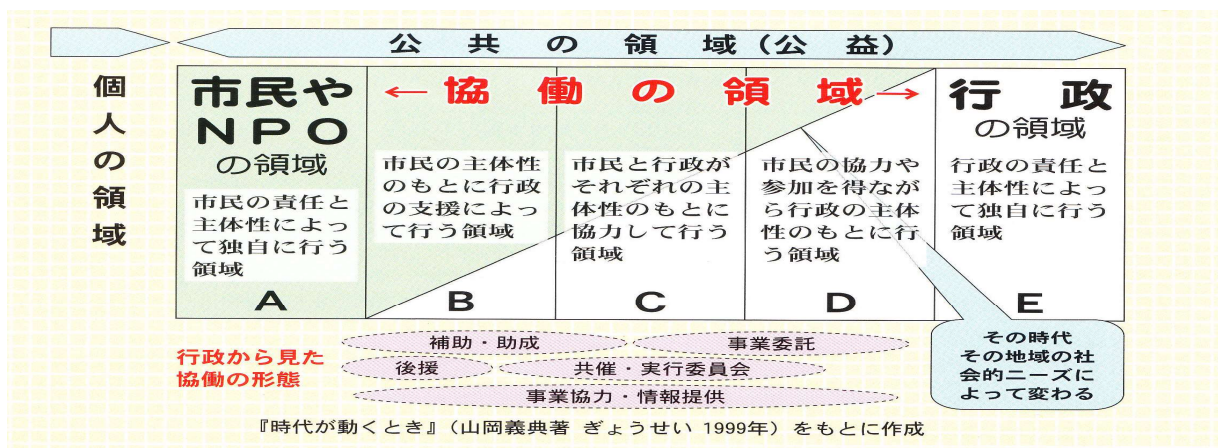
Step + (1) 信頼関係の構築

- ・自治振興会の専従事務局員は、会議や事業の準備、資料の作成や会議録のまとめなど一人で忙しくされています。状況に応じて、事務局業務を補助したり相談にのったりすることも、地域とのコミュニケーションのひとつです。
- ・マネージャーも万能ではなく、地域のリクエストの全てに対応することはできませんので、日ごろから人間関係や信頼関係を築き、上下、前後の立ち位置を取らず、横並び(対等)の関係で自治振興会の業務・運営に臨むよう努めてください。

Step + (2) こんな視点も

- コロナ禍においてはソーシャルディスタンスというこれまでと違った生活の様式が求められるようになりました。これを機に会議のリモート化やお葬式等冠婚葬祭行事の改善などを検討・実施してはどうでしょうか。一方、リモート会議やテレビ電話などの IT 技術は高齢者や子どもの見守り、災害時の情報提供などに応用することができます。効率的な自治振興会の運営や新たな活動への導入を提案してはどうでしょうか。
- マネージャー間の情報交換会や振興会の区域を超えた交流会を企画してはどうでしょうか。まちづくりの新しいネタやノウハウ、人材が見つかるかもしれません。特に若者、女性を集めての交流会は地域にとって目からウロコになるかもしれません。

「市民と行政の協働」についての理解も！



福井県越前市のパンフレットより引用